

レインフォレスト・ アライアンス 持続可能な農業基準

序文



レインフォレスト・アライアンスについて

レインフォレスト・アライアンスは、自然を守り、農業生産者や森林地域に暮らす人々の生活レベル向上のために社会と市場の持つ力を役立て、より持続可能な世界を目指します。

本文書について

本文書は、レインフォレスト・アライアンス 2020認証プログラムの重要な要素を構成するレインフォレスト・アライアンス 2020持続可能な農業基準（同基準の構成要素である農場要件とサプライチェーン要件を含む）に付属します。

本文書は、読者に本プログラムの開発の実現を可能とした「認証の再構築」の展望を理解してもらうとともに、基準の主要な機能と刷新の概要を提供することを目的としています。

翻訳免責事項

レインフォレスト・アライアンスの持続可能な農業認証プログラム資料の英語以外の言語への翻訳の正確性は、保証も黙示もされていません。翻訳に含まれる情報の正確性に関する質問がある場合は、英語の公式版を参照してください。翻訳で生じた不一致や差異には拘束力がなく、審査や認証には一切影響しません。

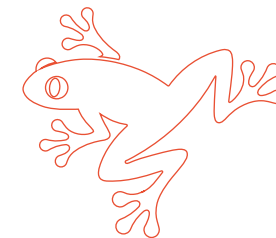
詳細について

レインフォレスト・アライアンスの詳細については、www.rainforest-alliance.orgにアクセスするか、info@ra.orgにお問い合わせください

目次

私たちの展望:認証の再構築	3
2020 認証プログラム	4
構造の刷新	6
個別の状況の考慮	6
要件の適用可能性	6
スマートメーターを使用した個別の状況に応じた目標	6
リスクベースの保証	6
サプライチェーン関係者向け	
サプライチェーンリスク査定(SCRA)	6
データ	6
地理空間データ	6
農場サポート・アプリケーション	6
段階的取り組み	6
テーマ別刷新	8
テーマ:生計	8
責任の共有	8
生活賃金と生活所得	8
生産性向上とより良い農場管理	8
テーマ:人権	9
社会問題に対するデューデリジェンスを用いた取り組み	9
ジェンダー平等の支援	9
リスクの高いサプライチェーン関係者に向けた社会的	
要件の適用	9
テーマ:気候	10
気候変動に対応した農業	10
テーマ:森林と生物多様性	10
生物多様性	10
高保全価値地区	10
農業	10
森林破壊	10
基準開発	12
2020 認証プログラムの継続的な改善	12

私たちの展望： 認証の再構築



近年、持続可能な農業の必要性はかつてないほど高まってきました。気候変動は世界中の自然環境にますます圧力をかけており、農業生産システム、生物多様性、自然資源使用の脅威となっています。このような変化は、何百万人もの人々の食糧安全保障と生活条件の悪化に繋がり、特に農作物生産国の貧しいコミュニティが最も深刻な影響を受けることになります。人的温室効果ガスの総排出量のほぼ4分の1は、農業、林業、その他の土地利用から排出されており、主な発生源は森林破壊と、家畜、土壌、養分管理による農業排出です。実際、農業は世界の森林破壊の約75%の原因となっています。

世界的な食料安全保障を達成するには、既存の耕作地で収穫を最適化することが非常に重要となります。世界で増加する人口（2050年までに98億人になると予測されています）を養うための競争の一方で、農場の気候変動に対する対応力を高めることは、喫緊の優先事項です。森林破壊を止め、自然生態系を保護し、有害な農薬使用を減らし、自然資源のより効果的な保護と使用を奨励することによって農業の環境への影響を減らすことも、人と自然が調和して生活するために必須です。

生産者が貧困の中で暮らし続け、農業生産者と労働者が、安全で健康的な労働条件と生活条件を含む基本的な人権と労働権を享受しない場合、農業は持続可能であるとは言えません。持続可能な農業とは、生産者の収入と労働者の賃金の継続的な改善を意味します。持続可能な農業システムに強制労働や児童労働はあってはならず、男女平等の権利と機会が付与されなければなりません。そうでなければ、農業を基盤とするコミュニティは持続可能な発展に従事し、真に繁栄することができません。

2018年のレインフォレスト・アライアンスとUTZの合併は、私たちの経験を組み合わせ、持続可能な農業と関連するサプライチェーンが現在直面している課題に適合した認証に対する強力で前向きな取り組みを開発する良い機会となりました。認証は、持続可能性をビジネスとして考えるという思考に大きな影響を与えました。しかし、生産者や企業により多くの価値を提供し、人と自然が調和して繁栄していくためには進化し続ける必要があります。

そのため、レインフォレスト・アライアンスは、認証制度の将来の長期的な展望を定義および実施するために、「認証の再構築」を行なっています。この再構築は、レインフォレスト・アライアンスのより広範囲な戦略の一部です。認証、要望に応じたサプライチェーンサービス、景観とコミュニティ、支援活動を援助する相互介入を通じて、私たちが活動する領域において大規模な持続可能性を推進していきます。

認証の将来に対するこの展望は、いくつかの主要な原則に基づいています。

- ・ **継続的改善** - 持続可能性は旅であり、それ自体が終着点ではありません。したがって、私たちは従来の合否判定方式を超えて、継続的な改善を推進する取り組みを採用しています。
- ・ **データ活用** - 私たちの新しい認証プログラムは、データの力を活用しています。つまり、リスクのより適切な分析と業績の測定、生産者向けの新しいデジタルツール、企業向けのより明確な業績の洞察などを採用しています。よりデータに基づいた取り組みへのこのデジタルシフトは、新しいリスクベースの保証モデルを支援します。これにより、地理空間技術によって、認証保有者、審査員、企業はより情報に基づいた意思決定を行うことができるようになります。
- ・ **個別の状況を考慮した取り組み** - 私たちは、様々な種類の農場やサプライチェーン関係者、および私たちが活動する国々と生産部門の現場における現実が大きく異なることを反映できる、個別の状況に適応可能なプログラムを提供するために、汎用モデルを超えたいと考えています。
- ・ **責任の共有** - 最後に、私たちの新しい認証プログラムは、サプライチェーン全体で責任を共有する意識を高め、企業が様々な仕組みを通じてより持続可能な生産に投資し、それに報いるよう奨励します。

2020 認証プログラム

レインフォレスト・アライアンス2020 認証プログラムは、認証の再構築のための取り組み基盤を提供します。新しい基準、保証システムおよび関連データと

技術システムは、レインフォレスト・アライアンス認証を持続可能な農業生産とサプライチェーンを支援するための必須ツールとして使用する世界中の多くの人々と企業に

より高い価値を提供するように設計されています。

2020 認証プログラムは、3つの主要要素で構成され、互いに密接に連携するように設計されています。



持続可能な 農業基準

農場 要件



サプライチェーン 要件



付属文書(拘束力あり):

認証を受けるには、付属文書の内容に遵守する必要があります。

手引き(拘束力なし):

ユーザーが要件を理解、解釈、実施するのに役立つが、審査に関して拘束力のない文書。



保証 システム

- ・ 審査員が農場およびサプライチェーン要件への遵守を評価する方法を設定する
- ・ 認証機関が一貫して質の高いレインフォレスト・アライアンス監査を実施することを保証する審査規則
- ・ 新しいレインフォレスト・アライアンス基準に対して審査を実施できる認証機関を決定するための認証機関承認規則
- ・ 認証機関職員要件



データシステムと ツール

農場およびサプライチェーンレベルの認証保有者は、メンバーとして登録し、新しいIT プラットフォームで審査手順を管理し、認証製品の販売取引を記録します。

新しいIT ベースのツールは、持続可能な農業基準の要件に対する持続可能性の取り組み成果をより適切に追跡および管理するために、生産者、認証保有者、サプライチェーン関係者が徐々に利用できるようになっていきます。

持続可能な農業基準は、持続可能な農業を促進するために連携して機能する2つの構成文書（農場要件とサプライチェーン要件）に分かれています。

持続可能な農業の枠組み（農場要件）を提供することにより、生産者のより良い農作物の生産、気候変動への適応、生産性向上、経費削減を手助けします。この基準は、認証保有者が農業の前向きな社会的、環境的、経済的影響を最大化できるように設計されているだけでなく、生産者の生活を改善し、居住地域の景観を保護するために強化された枠組みを提供します。

持続可能性への取り組みは、農場だけが行えば良いわけではありません。認証サプライチェーンのバイヤーは、生産者がより持続的に運営できるようにするため、より多くの支援を提供する必要があります。レインフォレスト・アライアンス2020 認証プログラムでは、透明性、責任ある商慣行、およびサプライチェーン全体の企業による責任の共有を促進することを目指しています。

サプライチェーン要件（旧称：加工・流通過程管理基準）および関係文書では、これらの目標を包括的な要件に発展させています。同要件は、企業の農場レベルでの持続可能性投資をよりの確に絞りこみ、企業の運営の内外で責任あるビジネス行動を促進し、構造的によりバランスの取れたサプライチェーンを創造します。したがって、サプライチェーン要件は、「従来の」トレーサビリティ規則よりも多くの項目を扱います。

農場要件とサプライチェーン要件の両方に、「認証の再構築」の展望を支える重要な構造的、およびテーマ別の刷新が含まれています。

構造の刷新



個別の状況の考慮

個別の状況を考慮した取り組みを使用する方式を導入することにより、プログラム使用者には、それぞれの状況に応じた要件のみが提

供されます。認証プログラムが最も重要な問題に正確に対処していることを確実にするためには、個別の状況を理解して適応することが重要となります。

要件の適用可能性

新しいプログラムでは、サプライチェーン内の生産者と企業の両方に、より多くの個別の状況に応じた要件を提供するための最初の段階が設けられています。

生産者は、自身の状況に関する情報を提供した後、適用される要件を受け取ります。今後数年間で、生産者に関連する課題にさらに適合するために、より具体的な要件を導入する予定です。

これはサプライチェーン関係者にも当てはまります。個別の状況を考慮した取り組みは、2020 持続可能な農業基準に対する認証の取得を目指すサプライチェーン関係者が各自の状況に関連する要件を受け取ることができるため、必ずしも基準のすべての要件の検証を受ける必要がないことを意味します。文書内のすべての要件が適用される可能性があります。企業の業務状況に応じて、適用される範囲が決まります。

スマートメーターを使用した個別の状況に応じた目標

「スマートメーター」の導入により、農業の継続的な改善が奨励されます。合否判定方式の取り組みに代わり、生産者は独自の目標に対してその取り組み成果を測定するように求められ、進歩を支援するためのより良いデータを構築します。その結果として、スマートメーターは、個別の状況に合った目標を設定する方法を生産者に提供します。



リスクベースの保証

2020 認証プログラムでは、重要な要素としてリスクが導入されています。

農業サプライチェーンの地域リスクを特定し

理解することで、最大の効果を得るため焦点を当てるべき改善点についての手引き書を、生産者とサプライチェーン関係者に提供することができますようになります。また、それと同時に、リスクを保証過程に組み込むことで、審査を実施する際に審査員により効果的な知識を提供でき、最も重要な問題を特定するために役立ちます。リスクベースの保証は、信頼できる有用なデータと遵守の証拠の収集と検証に左右されます。この保証は、最も高いリスクがサプライチェーン内のどこにあるかを特定し、第三者審査員または内部検査による確認の効率性を確立することを目的としています。認証機関の関与を減らすことではなく、より効率的に審査員が焦点を当てるべき点を特定することを意図しています。

サプライチェーン関係者向けサプライチェーンリスク査定 (SCRA)

保証システムの一部として、必要な検証の種類と頻度を決定するために、個々の施設レベルでの組織の業務における潜在的リスクを評価する質問集で構成されるサプライチェーン関係者の査定を通じてデータが収集されます。同質問集は、それぞれの業務に固有なその他の内部および第三者的データ（取引量、遵守状況、社会的リスクその他）と組み合わせた活動、所在地、農作物情報に基づいています。組織のプロファイルにより、個別の状況に合ったチェックリストが作成され、必須および適用可能な自己選択型要件の両方が提供されます。

該当する要件リストが組織によって確認されると、SCRA は組織の個別状況に合ったチェックリストに対処するために必要な検証レベルを決定します。必須要件に関し、組織は、検証レベル低下の可能性のある緩和要素と考えられる追加の遵守文書を提供できます。SCRA は次の2つ

の部分に分類することができます：1) 必須および自己選択型要件の個別の状況に合わせたチェックリスト
2) 遵守評価に必要な検証レベル



データ

地理空間データ

地理空間分析は、持続可能な農業基準の主要な要件に対する取り組み成果を支援および監視するために使用されます。

審査の準備段階では、認証農場のGPS 位置によって、2014年以降の森林転換の証拠の有無が特別仕様の森林指標地図に基づいて検証されます。この自動化されたリスク査定は、審査員が森林破壊をより効果的に検出するのに役立ち、団体責任者が団体構成員の森林破壊リスクにより適切に対処するためにも役立ちます。

農場サポート・アプリケーション

レインフォレスト・アライアンスはデジタルツールである農場サポート・アプリケーションを開発し、生産者が経営に関する意思決定と継続的な農場の改善を支援する信頼できるデータに確実にアクセスできるようにしました。生産者が自身の状況に合わせて、農業慣行を改善するために必要なデータ、ツール、知識、支援の入手や利用ができるように設計されています。



段階的取り組み

2020 認証プログラムに対するレインフォレスト・アライアンスの継続的改善取り組みに沿って、基準の刷新の多くでは持続可能性への「段階的」取り組みが採用され、徐々に要件が導入されています。

刷新的な項目に段階的に取り組むことにより、農業およ

びサプライチェーンにおける環境、社会、経済の状況を徐々に改善することを目指しています。重大な変更については、余裕をもって必要な調整や修正を行えるよう、すべての関連利害関係者に事前に通知されます。

テーマ別刷新



テーマ:生計

貧困に苦しむ生産者が多く、より持続可能な農業慣行を採用する余裕がありません。

さらに、生産者が認証を通じて持続可能な慣行を実証する場合、よりよい価格でその経費を回収できないことも多々あります。大規模な農場では、しばしば労働者の賃金が低く、生活に必要な経費が賄えていません。

2020 認証プログラムでは、生産者の生産性向上を支援し、世界的なサプライチェーンの体系的な不均衡を軽減する新しい仕組みを導入することで、農村部の生計を改善しようと試みています。

責任の共有

より持続可能な慣行を採用するには、多くの場合、かなりの先行投資が必要となります。多くの生産者や生産者団体は、このような追加経費を賄うことはできません。また、持続可能性に投資している生産者は、自らが生産する農作物に対してより良い価格を得られず、努力に合った報酬が得られないことが多くあります。

この不均衡に取り組むために最も効果的な方法は、サプライチェーン全体でより責任を共有することです。したがって、私たちの新しい認証プログラムは、持続可能性への移行に関するリスク、経費、および利益が生産者と購入者の間でより均等に分散されるようにすることを目標としています。

この目標によって、2つの新しい概念による以下の要件が生まれました。サステナビリティ差額 (SD) とサステナビリティ投資 (SI) です。これらは農場レベルとサプライチェーンレベルの両方で責任が異なります。農場要件とサプライチェーン要件の両方には、以下のプログラム上の要件に関する項目が含まれます。

- ・ 第 3章1項 - 生産経費と生活所得

- ・ 第 3章2項 - サステナビリティ差額 (SD)
- ・ 第 3章3項 - サステナビリティ投資 (SI)
- ・ 第 3章4項 - 生活賃金 (自己選択型)

サステナビリティ差額(SD)とサステナビリティ投資(SI)

サステナビリティ差額 (SD) は、商品の市場価格に加えて、認証生産者に追加の現金を支払う義務です。この支払いは、農場要件に対する遵守によって評価された農家の持続可能性への取り組みを認識し、持続可能な生産方法の継続的な導入を奨励することを目的としています。

2020 持続可能な農業基準は、支払われるべきサステナビリティ差額 (SD) の価格水準を設定していません。この価格をどのように決定すべきかについての様々な農作物部門に向けた具体的な案内書は、今後作成予定です。

さらに、レインフォレスト・アライアンス認証製品のバイヤーは、サプライチェーン内の生産者が農場要件を遵守し、遵守状況について報告できるようにするために必要な、「サステナビリティ投資 (SI)」を行わなければなりません。投資は、農場認証保有者の投資計画に従って行われます。投資計画は、生産者が主要要件または必須の改善要件の遵守のために必要なものと、認証を達成するための経費 (IMS 実装および審査費用など) に分類されます。現金で支払われるべきサステナビリティ差額 (SD) 以外の投資は、現金または現物で農場認証保有者に提供することができます。

生活賃金と生活所得

生産者の生活所得と労働者の生活賃金を達成するための進展を促進するには、まず農場に自らの経営の実現を評価してもらい、次にその格差を埋める道筋を作る支援を行うことが重要となります。新しいプログラムにおいて、大規模農場は給与評価ツールを完成させ、労働者への現在の支払い水準と生活賃金水準基準の違いを特定

し、格差がある場合は労働者代表と相談し賃金改善計画を策定して、徐々に生活賃金を上げていくことが要求されます。

生活賃金の権利に関してサプライチェーン内で責任の共有の原則を推進するために、本基準では、自己選択型の生活賃金モジュールを提供します。これは、賃金についてデューデリジェンスを実施し、サプライチェーン全体での対話を促進させる仕組みです。(農場認証保有者の範囲内において) 労働者に支払われる賃金の改善に協力して取り組むことに同意した農場の所有者とバイヤーは、このモジュールを使用して生活賃金を支払う段階に移行することができ、進捗を監視するためのしっかりとした記録を残します。

また、本プログラムは生産者が生計を立てるために必要な段階を定義しています。生活所得ツールは、認証保有者が生産者の純収入を推定し、その収入と自国の生計水準基準との格差を特定できるようにするために開発されました。このツールはまだ必須の要件ではなく、最初は限られた国でのみ利用できるようになります。コートジボワールとガーナから始まり、より幅広い国々を含むよう徐々に開発されます。その後、認証保有者は、労働者及び団体構成員の生計向上と持続可能な農業への取り組みを継続する努力の成果の一環として、生産者への生活所得の支払いに向けた改善について報告することを選択できます。

生産性向上とより良い農場管理

農場要件は、より良い農場管理に大きな重点を置いており、デジタル内部管理システムの導入がその重要な役割を担っています。農場レベルでの詳細なデータ収集を容易にするこの新しいツールにより、生産者は取り組みの成果を分析し、より情報に基づいたビジネス上の意思決定を行うことができるようになります。また、生産者の取り組み成果の現状と改善策について監査員に透明性を

提供することにより、認証手順を支援します。さらに、この基準には、農場および生産者団体レベルでトレーサビリティ手順を維持するための、手順の実行を改善するうえでの多くの要件が含まれています。つまりところ農業はビジネスであり、私たちの目的は農場のビジネス的成功を後押しすることであるため、これらの要件は、サプライチェーン関係者の要件と全く同じではないですが、類似していると言えます。



テーマ: 人権

社会問題に対するデューデリジェンスを用いた取り組み方

レインフォレスト・アライアンスは、これまでで人権侵害を許容したことが一度もなく、これからも許容しません。長年の経験から学んだことは、児童労働やその他の人権を侵害する労働を禁止するだけでは不十分であるということです。例えば、自動的な認証解除が児童労働の発見への対応であった場合、これは問題を発見しにくくする可能性が高く、審査員による検出が困難になり、対処がより難しくなります。そのため、新しい認証プログラムでは、労働やその他の人権侵害に取り組むための「事前評価対処」方式を推進しています。

この新しいリスクベースの手法は、国際的基準として受け入れられつつある、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」および「OECD 多国籍企業向けガイドライン」で提示されている人権デューデリジェンスの優れた実践と一致します。認証農場とサプライチェーン関係者が労働および人権のリスクを査定および軽減し、緩和策の効果を監視して事件の発生を防止します。違反が特定された場合は、その違反を是正するステップを取ることになります。危険にさらされている子供や人権が侵害されている労働者への関心が、この新たな取り組みの根本として存在します。

これらの社会問題/労働および人権侵害の根本原因を解決しなければ、この問題は解消されません。そのため、レインフォレスト・アライアンスは、認証農場、政府、市民社会、サプライチェーンパートナー間の協力を促進し、これらの問題を共に解決します。

ジェンダー平等の支援

新しい基準は、ジェンダーの不平等に対処するためのより強力で一貫した取り組みも採用しており、格差を特定するため細分化されたデータを収集します。要件では、認証農場とサプライチェーン関係者に、ジェンダー差別やハラスメントを防止、監視、是正を担当する連絡担当者または委員会を任命することを義務付けています。以前のレインフォレスト・アライアンスおよびUTZ 基準と同様に、新しい基準には、妊娠中の女性、農薬を扱う労働者、雇用主が提供する住宅に住む労働者、および第三者の労働者派遣業者を通じて雇用された出稼ぎ労働者などの弱者の集団に対する保護が引き続き含まれています。

リスクの高いサプライチェーン関係者に向けた

社会的要件の適用

安全な労働環境、労働者の結社の自由、ジェンダー不平等など、社会問題が発生するリスクは農場だけに止まるものではありません。そのため、2020 持続可能な農業基準は、サプライチェーン内でこのような問題に確実に取り組むことも目的としています。

サプライチェーン関係者がこの取り組みに適切にできるようにするために、システムは個別の状況の考慮方式を利用し、社会的要件が、サプライチェーンリスク査定過程を通じて特定された、社会的項目にリスクが発見されたサプライチェーン関係者のみに適用されるようにします。

まず、これらの要件は、農場認証後の最初の加工業者にのみ適用されます。



テーマ:気候

熱帯地域の生産者は、特に気候危機の影響を受けています。気温が上昇し、気象パターンがますます予測不可能になる中で、生産者は干ばつ、栽培期間の短縮、害虫や作物病の頻繁な発生などの困難な課題に直面しています。このような喫緊の課題に対応して、新しい基準要件は、生産者がその地域における気候耐性を高めることの支援に焦点を当てています。

気候変動に対応した農業

私たちは気候に対応した農業が、差し迫った課題への適応と将来の脅威への準備にどれほど役に立つかを直接見てきました。気候適応型の取り組みであるということが鍵です。最初のステップは、地域の生態系と主要農作物を考慮に入れ、特定の農場または農業コミュニティが直面する気候リスクを査定することです。例えば、洪水に弱い中南米の低地バナナ農園では、異常に長い干ばつに苦しんでいる東アフリカの高地のコffee農園とは異なる気候対応の取り組みが必要になります。特定されたリスクに応じて、生産者は、これらの特定の課題に取り組むために設計された持続可能な農法を組み合わせることで適用することが推奨されます。水不足を管理するための雨水貯留システムの構築や、土壌の浸食を防ぐために有害な雑草を取り除き柔らかい雑草を残す手動除草など、様々な組み合わせが考えられます。

この取り組みの優れている点は、気候変動に直面した生産者の生計を保護し、さらには改善に不可欠な農業生産性の向上を支援するだけでなく、自然資源を保護し、生物多様性保護により環境の利益をもたらす、地域の生態系の長期的な持続可能性に貢献できることです。また、気候変動に配慮した農業は、個別の取り組みというよりも、持続可能な農業技術の組み合わせを活用する方法であることも心に留めてください。このため、その原則は2020 持続可能な農業基準全体に組み込まれており、プロ

グラムの中の1つの明確な項目として構成されていません。



テーマ:森林と生物多様性

レインフォレスト・アライアンスは、世界中の森林と生物多様性に富んだ生態系を保護するための包括的な戦略を採用しています。

生物多様性

生物多様性を保護・保全するために、2020 認証プログラムは生息地の保全に重点を置いています。例えば、レインフォレスト・アライアンス認証農場は、自然植生の多様性を維持および向上させることが要求されます。これを支援するために、新しい持続可能な農業基準では、アグロフォレストリーなどの慣行を促進しています。認証農場は、生産システムを多様化し、害虫駆除や受粉などの重要な生態系サービスを支援するための対策を講じることも要求されます。さらに、生産者は、狩猟を禁止し、外来侵入種の拡散を最小限に抑え、人と野生生物の対立を最小限に抑えるための措置を講じることで、絶滅危惧種やその他の在来の動植物の保護を支援する必要があります。

高保全価値地区

高保全価値地区 (HCV) は、生物学的、生態学的、社会的、または文化的に重要な区域です。HCV を保護することは、重要な環境および社会的価値の保全に役立ち、レインフォレスト・アライアンスの農業基準の目標と完全に一致しています。

新しい基準において、農場は、リスク査定質問集を通じて、所有する土地のまたは近隣のHCV の完全性に対するリスクを査定し、緩和措置を通じてこれらのリスクに対処することが求められます。リスクには、無傷の森林景観や湿地などを含む、保護地域や主要な生物多様性地域への近接性が含まれます。レ

インフォレスト・アライアンス認証農場がこれらの区域内またはその近く (~2 km 以内) にある場合、リスク軽減実施要綱は、特定の管理対策を通じて、希少な、絶滅の危機に瀕している動植物種やその生息地など、これらの地域の主要な保護属性の保全を要求します。

農薬

レインフォレスト・アライアンスのより持続可能な農業慣行の利用を推進するという取り組みには、農業が環境に与える影響を軽減するためのより包括的な取り組み方が含まれています。有害農薬に対してより環境に優しい代替手段を提供する総合的病害虫管理 (IPM) などの手法は、これを達成するための鍵となります。農薬使用の長期的かつ持続的な削減は、より厳しい規則だけでは達成できません。むしろ、農場が病害虫や作物病を管理する方法に、根本的な変化を加えることが必要となります。レインフォレスト・アライアンスは、科学的根拠に基づいた取り組みと現場の状況に沿った取り組みの両方を組み合わせ、次の数年間で、より作物固有のIPM アプローチに徐々に移行することを計画しています。短期的には、レインフォレスト・アライアンスとUTZ の禁止農薬リストを統合し、2020 認証プログラムで1つの統合アプローチを提案する予定です。

森林破壊

レインフォレスト・アライアンスは、過去30年間、世界の森林を保護するための包括的な全方位の取り組みを開発してきました。責任枠組みイニシアチブ

(Accountability Framework Initiative) や他の環境専門非政府組織が提唱する取り組みに沿って、私たちの新しいプログラムは森林破壊だけでなく、湿地や泥炭地を含むすべての自然生態系の破壊も禁じており、これは、さらに多くの土地が保護されることを意味します。2014年以降に自然生態系を破壊したとみなされる農場は、認証を取得することが出来ません。私たちは、いくつかの理由により、自然生態系の変換/破壊を測定する基準年とし

て2014年を選択しました。まず、この年以降、衛星データがより容易に利用できるようになり、保証を改善するためのより確固としたデータを入手できるようになりました。さらに、以前のレインフォレスト・アライアンスとUTZ システムでは、森林ごとに異なる伐採日が登録されていましたが、1つの規則に統合することで、その要件と実行をより明確にする形となりました。

審査の準備段階では、認証農場のGPS 位置によって、2014年以降の森林転換の証拠の有無が特別仕様の森林指標地図に基づいてチェックされます。この自動化されたリスク査定は、審査員が森林破壊をより効果的に検出するのに役立ち、生産者が所属する生産者団体内の森林破壊リスクにより適切に対処するためにも役立ちます。また、新しい基準では、農業が気候と生物多様性を与える影響を最小限に抑えるために、生産者に既存の農場やアグロフォレストリーシステム、保護地で樹木被覆を増やすことを要求しています。

基準の 開発

レインフォレスト・アライアンスはISEAL の正規会員です。2020 持続可能な農業基準は、ISEALの「優良実践に関する基準設定規約」に従って開発され、適切性、関連性と透明性があり、利害関係者の利益のバランスを反映することを徹底しています。2018年12月から2019年8月までの間に、本基準に関する2つの公開諮問が開催され、本要件の提案に関する意見を収集しました。

同諮問には、生産者、企業、非政府組織、政府、研究機関など、約50か国の200を超える組織を代表する1000人以上の人々から意見が寄せられました。



2020 認証 プログラムの 継続的な 改善

持続可能な農業基準が、生産者とサプライチェーン関係者による継続的な改善を促進するように設計されているのと同様に、レインフォレスト・アライアンスは、2020 認証プログラムを含む継続的な改善の取組方法を採用し、継続的に業務を改善することに専心しています。

「ISEAL アライアンス基準設定規約」では、「継続的な適切性、関連性ならびに定められた目標を達成するための有効性を保つために、少なくとも5年ごとに」基準を見直すことを要求しています。以前の私たちの取組方法では、この規約は5年毎に1回、主要な基準改訂を実施することを意味していました。しかし、私たちの新しい取り組みにおいては、プログラムの利用者から継続的にデータを収集し、プログラムが可能な限り最大の影響力を持ち、使用者が取り扱いやすく、効果的な実装支援をすることができるように常時微調整を実施していきます。

新しいデータシステムによって促進される実装に関するデータの可用性の向上は、認証システムの改善と更新にも使用されます。

